

事業活動実績報告書

施 設 名	和光幼稚園
教 育 理 念	「健康」と「表現」の領域を2大柱とし、子どもの心身ともに健やかな成長と個性豊かな感性を養う
1 事業名	造形あそび
2 実施期間	令和 7年 6月 29日 ～ 令和 8年 3月 17日

3 取組概要	(取組日) 令和 7年 6月 5日 【移動動物園】 より充実した表現あそび・造形あそびの活動を目指して、数年前から移動動物園を行っている。前日は各クラス導入活動。子ども達の興味関心を高めるとともに、何を表現するか、の着眼点などを考慮した保育内容を工夫して行っている。当日は、嬉しい！楽しい！かわいい！フワフワしている♪絨毯みたい！結構重い！等々、子ども達は動物たちとたっぷり触れ合いながら、わくわく体験の中で多くのことを感じ取っていた。 
	(取組日) 令和 7年 6月 5日 ～ 令和 7年 7月 【移動動物園】からの表現活動・造形あそび(年長児) 年長児はカラーポリ袋などのたくさんの素材を用意し、自分が一番つくりたい動物を作った。移動動物園で出会った動物を思い出しながら、どの動物をどういう素材で表現するかを考え進めた。中にはどう作り始めてよいかわからない子もいたが、保育者が「どの動物がかわいかった？」「どこが素敵だった？」「どの素材が近いかな？」などと声を掛けながら、一緒にイメージを膨らませていった。一旦作り終えても、友達の造形を見て、もう一度付け足したりと、探究しながらどの子も集中して作っていた。 
	 個性豊かな動物たちが、どんどん出来上がった。色・冠・しっぽ・羽・耳等々、こだわった箇所はさまざま。創りあげると、子ども達は、各々が動物になりきっての表現活動が始まった。保育者が「できた人はホールに移動していいよ」と声掛けをすると、思う存分、自分の作った動物になりきったり、友達と交流したりしていた。歩き方・飛び方・鳴き方・たたずまい等々、こちらの表現も様々だった。 

3 取組概要	(取組日) 令和 7年 6月 5日 ～ 令和 7年 7月 【移動動物園】からの造形あそび(年中児・年少児) 年中児は、柵を描いた画用紙に、移動動物園で出会った動物たちを描いた。動物たちを思い出し、近くの友達と会話をしながら賑やかに楽しく描いていた。思い出しながら集中して描いている子もいた。最終的には、動物ごと壁に飾って自分たちだけの動物園を作った。年少児は、鳥のカイトを制作して、つくった鳥を園庭で飛ばして楽しめました。	
	(取組日) 令和 7年 6月 25日 ～ 【星野はるか先生との造形あそび①】(年長児) 星野先生との造形あそびは、今年度で3回目になる。毎年一緒にテーマを考えながら、子ども達の表現・造形活動を展開している。例年第1回目は、子どもの目の前で星野先生にイラストを描いていただき、子ども達が色づけしていく活動を行っていたが、今年度は「みんなも一緒に大きなキャンパスに描いてみよう!」というコンセプトにした。子ども達は大きな絵を描けるのだろうか? という思いもあったが、星野先生のイラストに感化され、伸び伸びと思い思いの絵を描いていた。	
		
	(取組日) 令和 7年 9月 10日 【星野はるか先生との造形あそび②導入】(年長児) 星野先生との造形あそび第2回目は、Tシャツづくり。導入として、前日にトイレットペーパーの芯でお花のスタンプ作りを行った。他にも廃材などをスタンプに使用する。過去2年間の活動で、子どもの特性?として、①出ている色を全部使ってしまう虹色の作品になる②目の前の色をどんどん混ぜてしまい、濃い茶色や灰色になってしまう...という状況があった。今回は「Tシャツなら自分が着たい色やデザインを作るはず!」とのアドバイスから、世界に1つだけのTシャツを作る。	
	(取組日) 令和 7年 9月 11日 【星野はるか先生との造形あそび②】(年長児) 初めに段ボールのスタンプで、色を混ぜ合わせた感じを体験。次に星野先生が色を作るお話をしてくださいました。色の組み合わせってたくさんあるね。どれも素敵な色。自分の好きな色を作って、好きな形をスタンプしてみよう! 手形もいいね! 子ども達は、自分が着るTシャツなので、真剣にデザインを考えたり、色を作ったり。勢いで楽しむ造形とは少し違って、一人一人がデザイナーになってTシャツを作っていました。	
		

3	取組概要	【造った後は…】 アピールポイント ♡を発表。世界に 1つだけのTシャ ツを着て帰しまし た。嬉しいっぱ い♪  
		(取組日) 令和 7年 10月 25日 ～ 令和 7年 10月 30日 【ハロウィーンのコスチューム作り】 つくることが大好きな年長児。自由あそびの中でもハロウィーンのコスチュームを「つくりたい！」と意欲満々。素材が違うものを組み合わせて、作り方がわからない時は「これどうやってするの？」と保育者に聴き、保育者が少し伝えると「やってみる！」と自分で作り出す子ども達。創造し、探求する力がついてきました。個性豊かなコスチュームの出来上がり♪ 
		(取組日) 令和 7年 12月 16日 ～ 【星野はるか先生との造形あそび③】(年長児) 星野先生との造形あそび第3回目は、卒園制作です。紙皿に色を塗ったり、いろいろな素材のパーツをみんなで作り、自分だけの花を作りました。個性豊かな花たちを星野先生が大きな1つの作品に仕上げてくれました。自分の好きな色・形・素材を考えて探してつくって…思い出に残る作品ができたね！ 
		  
		(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

効果検証報告書(継続事業用)

施 設 名	和光幼稚園				
教 育 理 念	「健康」と「表現」の領域を2大柱とし、子どもの心身ともに健やかな成長と、個性豊かな感性を養う				

計 画 時	事業の区分(5領域)	幼稚園教育要領に示された5領域に該当するもの(複数可。最も当てはまるものには◎を選択してください)								
		健康	人間関係	○	環境	○	言葉	○	表現	◎
	1 事業名	造形あそび								
	2 事業概要	本園の造形あそびをより充実させる為に、①動物を見たり触ったりする体験を通して、一人一人が動物の形や鳴き声や感触からさまざまなことを感じ取ることで、豊かな感性を養う。その体験をもとに、感じたことや興味を、さまざまな材料を使って制作するなど、その子なりの豊かな表現活動へと繋げていく。②造形作家の星野はるか氏が、年長児に造形の楽しさ、素晴らしさを、制作体験を通して伝える。造形作家ならではの観点から、テーマを決め、作品と一緒に制作することで、味わたことのないより豊かな表現を心身ともに体現していく。								
	3 対象学級(クラス名) 対象人数	①全学級 (クラス名： 年長 ほし組、年中 はと組、年少 たんぽぽ組、満3 いちご組)						54 名		
対象学級(クラス名) 対象人数	②年長児 (クラス名： ほし組)						20 名			
4 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況									
	① 動物に関する表現活動 (人員：5名、 動物：ポニー、羊、コウゴウインコ、うさぎ、ひよこ) 導入保育：各クラスの保育者が、動物に関する保育を年齢に合わせて実施 動物とのふれあい体験：移動動物園(東武レジャーランド) 表現活動：移動動物園後に各クラスの保育者が実施(表現遊び・制作活動など)									
事業後	② 造形作家の星野はるか氏との表現活動 年3回、年長児に向けて表現活動の保育を行う 星野氏には、事前に年長児の姿や普段の制作活動を伝え、より子どもたちが楽しく意欲的に主体的、協働的に造形活動に取り組めるようなテーマや内容を保育者と一緒に企画し、子ども達は造形作家と共に1つの大きな未知の作品を創りあげていく									
	4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等								
	動物に関する表現活動において： 今年度も、導入の保育では、各クラスの保育者が、移動動物園後の制作活動を視野に入れながら「ねらい」をもって臨み、子ども達はわくわくする気持ちで動物を迎えることができていた。動物とのふれあい体験では、動物に直接触れる体験を通して、動物の大きさや温かさ、さまざまな特徴を感じながら、触れ合いを十分に味わう姿が見られた。その感動を友達と共有する姿も見られた。表現活動では、感動体験をもとに、感じたことや興味を、さまざまな材料を使って制作し、その子なりの豊かな表現活動が十分に行っていた。 造形作家の星野はるか氏との表現活動において： 年長児に年3回、表現活動の保育を行うことができた。星野氏には、事前に年長児の姿や普段の制作活動を伝えながら、より子どもたちが楽しく意欲的に主体的、協働的に造形活動に取り組めるようなテーマや内容を保育者と一緒に企画し、子ども達は造形作家と共に毎回わくわくしながら1つの大きな未知の作品を創りあげることができた。今年度は、過去2年の経験をもとに、活動内容も充実して行うことができた。									
計 画 時	5 事業のねらい	本園は、「健康」と「表現」の領域を教育の2大柱とし、子どもたちの心身ともに健やかな成長を促すとともに、個性豊かな感性を養っていくことを特色としている。「表現」の領域において、音楽活動においては、専門家を招いての活動やカリキュラムを行うことで充実した内容になっている。造形においては、あそびや保育の中で、工夫を凝らし行っているが、もっと充実させることができるのではないかと考えている。保育では、絵画・折り紙・壁面・天面制作などさまざまな制作を行っているが、季節の制作が多く、体験を通じた制作を行うことはあまりない。そこで、動物を幼稚園に招き、動物を見たり触ったりする直接的な体験を通して、動物の形や鳴き声や感触を感じ、豊かな感性を養う。その体験をもとに、感じたことや興味を、体で表現したり、さまざまな材料を使って制作するなど、一人一人の豊かな表現活動へと繋がっていくと考えている。また、造形作家の星野はるか氏を迎えての表現活動では、より子どもたちが楽しく意欲的に主体的、協働的に造形活動に取り組めるようなテーマや内容を保育者と一緒に企画し、子ども達は造形作家と共に1つの大きな未知の作品を創りあげていく。場所もホールや園庭を使い、材料や表現方法も普段ではなかなかできないような、身体全体を使って、表現していく。その際、保育者も一緒に参加し、造形の専門性に触れながら、日々の保育に取り入れられる技術や援助の仕方を学び、年間を通して子どもたちの豊かな感性や表現を伸ばしていく。								
	5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等								
事業後	本園の教育の特色の1つである「表現」の領域の造形において、保育の中では、さまざまな制作を行っているが、体験を通じた制作を行うことで、さらに教育を充実させたいという思いから、今年度もこの事業に取り組んだ。動物を幼稚園に招き、動物を見たり触ったりする体験からは、動物の形や鳴き声や感触を直接的に感じることができ、豊かな感性を養うことに寄与できた。その体験をもとに、感じたことや興味を、さまざまな材料を使って制作し、一人一人の豊かな表現活動へと繋げることができた。また、造形作家の星野はるか氏を迎えての表現活動では、より子どもたちが楽しく意欲的に主体的、協働的に造形活動に取り組めるようなテーマや内容を保育者と一緒に企画しながらすすめ、子ども達は造形作家と共に毎回わくわくしながら、1つの大きな未知の作品を創りあげていくことができた。今年度は、第2回目は過去の経験から、色づくりの造形を行いたく、個々の作品となったが、テーマに沿った活動ができた。専門家ならではの材料や表現方法も体験することができ、子どもも保育者も、造形の専門性に触れながら、年間を通して子どもたちの豊かな感性や表現を伸ばしていくことに寄与できた。									

計 画 時	6 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 ①導入保育(5月下旬)：各クラスの保育者が、動物に関する保育を年齢に合わせて実施(動物の紹介など) 動物とのふれあい体験(5月30日)：クラス毎に動物を間近で見たり、エサをあげたり、触ったりする体験を通して、動物の大きさや温かさ、さまざまな特徴を感じながら、触れ合いを十分に味わう 表現活動の保育(移動動物園後～)：年齢発達に応じた表現の保育を行う(体験を通した表現あそび・制作活動など) ②事前打ち合わせ(5月上旬)：星野氏に和光幼稚園の表現に関する教育内容を伝え、子ども達の姿を理解していただいた上で、1年を通して3回実施する「造形あそび」の表現活動の企画・準備を依頼。保育者も一緒に企画し、子ども達は造形作家と共に、1つの大きな未知の作品を創りあげていく。子どもが日常の保育とは違った設定で、ワクワク感を感じながら、楽しく意欲的に、主体的、協働して造形に取り組む体験をしてほしい。そして今後の表現活動でも、自分なりの豊かな表現ができるような経験を味わってほしい。 造形あそび第1回(6月26日)：「みんなで絵描き」星野氏とコミュニケーションを取りながら、長いロール紙に星野氏と一緒に思いの詰まった絵を描いていく(前回までは絵を塗っていた) 造形あそび第2回(9月12日)：企画中(自作の廃材スタンプを使い、色の混ぜ合わせを楽しむながらの作品制作を企画中) 造形あそび第3回(12月17日)：「卒園制作」 上記のうち、幼稚園教育要領に示された「内容」について、各園で積み重ねてきた取組を発展させた点 ①(1)生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ、という「内容」に関して、「豊かな感性を養う」ことは、教育理念に掲げており、子ども達がさまざまなことに興味関心を持ち、「楽しい」、「やってみたい!」の気持ちを子ども一人一人から引き出せるような環境設定を心掛けてきた。園庭には季節ごとにさまざまな花を目にでき、メダカや亀の飼育や、園庭で見つけてきた虫たちを触ったり、飼育したいと空き箱に入れたりして、思い思いの感じ方を保育者も受け止め、共感し、子ども達が楽しみながら主体的に表現できるような保育を行っている。本園は、園庭が余り広くなく、動物は多数飼えない環境であるが、移動動物園という存在を知り、普段の園にはいない動物を見て触って、何かを感じたり感動したり、心を弾ませる体験をし、その感じたことをそのまま表わそうとする姿を活動として行いたいと考えている。移動動物園が来て「楽しかったね、可愛かったね」で終わらせるのではなく、幼稚園という場所で、保育者や友達と一緒に、時に共感しながら、普段以上に何かを感じた子ども達は、つくる、描く、演じるetc.といった表現活動へと繋げていき、その一人一人の表現を子ども同士も共有し、お互いと認め合う中で、多様で豊かな感性を養っていくことを目指していきたい。 ②(7)かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする、という「内容」に関して、本園では、「表現」の領域を教育の2大柱としており、保育活動でも季節や行事といった生活を取り入れながら、描く、つくるといった内容を行っている。また近年では、保育者も研修などで研鑽を積みながら、一斉保育に限らずあそびの中でも、表現あそびとして思い思いの制作を行う子どもも多い。今回の活動では、造形の専門家を招くことで、普段の保育ではなかなか体験できない表現活動と一緒に企画しながら、ワクワク感をたくさん感じ、感性をより豊かに養っていく経験を重ねていきたいと考える。本園では、本物を見せる、本物と触れ合うという点にも重点を置き、保育を行ってきた。音楽表現に関しても、プロの演奏家のコンサートを学期ごとに行っているが、「獅子舞・和太鼓鑑賞会」においても、鑑賞後に子ども達が大変意欲的に和太鼓を叩く姿が見られるようになったように、保育者に限らず、多様な大人に関わることや、専門家による保育も非常に意義のあることと重きを置いている。造形の専門家と一緒にを行う保育は、今まで積み重ねてきた取り組みを発展させたものだと考えている。 (継続事業のみ記入)前年度の取組から発展させた点 ①前年度までは、移動動物園後の表現活動の保育では、園にある折り紙や画用紙を中心に、制作活動を行っていたが、今年度は、子ども達がより楽しんで工夫をしながら表現活動ができるように、カラーポリ袋といったような子ども自身の制作活動ではあまり使用しない材料を準備し、広がりのある表現活動を実施したい。 ②前年度までは、第1回目の取り組みでは、星野氏に子ども達の目の前で真っ白なキャンパスに絵を描いていただき、専門家ならではの子どもを引き込む絵画の技術と話術で、子ども達に造形の魅力を伝えてくださっていた。子ども達も楽しくて「やりたい!」気持ちに繋がっていた。今年度は、それに加えて、色の組み合わせで色が変わっていく不思議さを子ども達に伝えていただき、子ども自身が色を混ぜてみる体験を行い、楽しさや面白さを味わう保育を実施する予定。
		事業実績から推測される効果や改善点等 動物に関する表現活動において： 計画通り、各クラスの保育者が、移動動物園後の制作活動を視野に入れながら「ねらい」をもって導入保育に臨み、子ども達はワクワクする気持ちで動物を迎えることができていた。動物とのふれあい体験では、動物に直接触れる体験を通して、動物の大きさや温かさ、さまざまな特徴を感じながら、触れ合いを十分に味わう姿が見られた。その感動を友達と共有する姿も見られた。表現活動では、感動体験をもとに、感じたことや興味を、さまざまな材料を使って制作し、その子なりの豊かな表現活動が行えていた。年長児はカラーポリ袋を制作に使用し、探究しながらの制作、制作後には動物になりきる表現活動にまで主体的に発展させていた。 造形作家の星野はるか氏との表現活動において： 年3回にわたり、年長児に向けて表現活動の保育を行うことができた。星野氏には、事前に年長児の姿や普段の制作活動を伝えながら、より子どもたちが楽しく意欲的に主体的、協働的に造形活動に取り組めるようなテーマや内容を保育者と一緒に企画し、子ども達は造形作家と共に毎回ワクワクしながら1つの大きな未知の作品を創りあげることができた。今年度は、過去の経験をともに、第1回目は大きなキャンパスに絵を描き(塗るだけではない)、第2回目は個人の制作になったが、活動内容はさらに充実して行うことができた。 造形あそび第1回目(6月26日)：動物の絵画の共同作成 造形あそび第2回(9月12日)：「ART-Tシャツ作り」 造形あそび第3回(12月17日)：「卒園制作」「自分だけの花を咲かそう」の共同作品
	事業後	61についての効果・検証

計画時	7 環境構成例	導入保育： 保育者が動物に関する絵本や資料を準備し、保育の中で子ども達に紹介するなどして、動物に興味関心をもち、動物の観察や感じ方ができるような保育を行い、会うことを楽しみに待てるようにする 動物とのふれあい： 東武レジャー企画の移動動物園を招く。園庭に動物ごとのブースを設け、動物園の飼育員の指導のもと、クラス毎に動物たちとじかに触れあう。 (例)①羊の餌やり: 柵内の羊にキャベツをあげたり、羊をなでたり話しかけながらのふれあい②コウゴウインコとの会話：大きなインコが言葉を話せることを知り、優しく話しかけることでインコとの交流を楽しむ③ヒヨコの抱っこ：ヒヨコの抱き方を教えてもらい、一人一羽ずつ手で持ち、ヒヨコの小ささや形や動きを感じる。 表現活動： (例) 年齢に合わせたテーマを考えた上で、さまざまな材料(画用紙・模造紙・折り紙・綿・モール・スズランテープ・クレヨン・マーカーペン・のり・はさみ・セロハンテープ・カラーポリ袋など)を準備し、子どもたちが動物と触れ合い感じた中で「つくりたい!」「なりたい!」動物を好きな材料を使い、思い思いの動物を表現する 一人一人(または数名で・クラスで)が作った作品を紹介し合う ②第1回～第3回 各回、テーマを設定し、大きな模造紙や布をキャンバスに、さまざまな材料で、色彩を感じ考えながら、造形作家の星野氏と一緒に大きな1つの作品を作っていく。場所も保育室ではなく、広々とした和光幼稚園のホールや園庭を使う。クレヨンや筆をもって描くだけでなく、身体全体を使って大胆に描いていくことも予定している。星野氏の魔法のように絵を描いていく姿に触れたり、アッと驚くような仕掛けがある作品を子ども達も一緒に手掛けていく。
	事業後 7についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ①導入保育： 保育者が動物に関する絵本やタブレットを準備し、動物に関するクイズや読み聞かせを行い、子ども達が動物に興味関心をもって、動物の観察や感じ方ができるような保育を行い、会うことを楽しみに待つことができていた。 動物とのふれあい： 東武レジャー企画の移動動物園を招く。園庭に動物ごとのブースを設け、動物園の飼育員の指導のもと、クラス毎に動物たちと触れあう。羊を触ったり餌やり、コウゴウインコとの会話、ヒヨコの抱っこ、ウサギを撫でるなどができるよう、飼育員の方が各ブースにいて子どもにわかりやすく説明してくれ、動物たちに親近感が増していた。 表現活動： 年齢に合わせたテーマを考えた上で、さまざまな材料(画用紙・模造紙・折り紙・綿・モール・スズランテープ・クレヨン・マーカーペン・のり・はさみ・セロハンテープ・カラーポリ袋など)を準備し、子どもたちが動物と触れ合い感じた中で「つくりたい!」「なりたい!」思いを十分表現できていた。好きな材料を使い、思い思いの動物を表現していた。一人一人(または数名で・クラスで)が作った作品を紹介し、友達の表現にも触れることができた。年少: 鳥の制作、年中: 動物の絵を描く、年長: 動物のコスチュームを作る ②造形作家の星野はるか氏との表現活動において： 第1回目「動物の絵画の共同作成」: 長いロール紙・ペン(講師)／クレパス(園児)、昨年度までと違い、今年度は長いロール紙に講師と一緒にさまざまな絵を描いた。作品は園内に作品として飾っている。 第2回「ART-Tシャツ作り」: 色を作る、形を作る、デザインをイメージするというコンセプトで臨んだ。自分の着るTシャツだからこそ、真剣に色を考え作るのではないか、という「ねらい」通りの姿が見られた。作った後は、発表会をして、世界に1つだけのオリジナルTシャツを誇らしげに嬉しそうに着て帰った。 第3回【卒園制作】「自分だけの花を咲かせよう」: 木板・鉛筆・アクリル絵の具・スポンジ・紙皿・ボンド・段ボール・いろいろな紙・マジック、作品は卒園制作として6年間園内に飾る。
計画時	8 期待される効果 児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 【移動動物園】: 普段の園にはいない動物を見て触って、何かを感じたり感動したり、心を弾ませる体験ができる。その感じたことをそのまま表わそうとする姿に繋がるだろう。遠くから眺める動物園とは違い、動物を間近で見えて触る体験は、動物に対してよりさまざまな感情も生まれる。また、家族で行く場合とは異なり、幼児期の子どものにとって、友達といっしょに体験することということにも大きな意味がある。動物に対する興味や関心、友達や先生との会話をしながらコミュニケーションを高めることもでき、その会話や表情から気持ちを共有したり、新たな発見・興味も生まれることが期待できる。 表現の保育： ①導入部分では、動物への興味関心を年齢や表現活動の内容に応じた保育を行うことで、動物に対する親しみを感じたり、動物に触れあう時も様々な視点で触れ合ったり観察する姿、移動動物園後の表現活動では、より豊かな表現に繋げていく効果が期待される。子どもがより期待感や興味関心をもって移動動物園に参加する姿、主体的に動物に接する姿が期待できる。 ②表現活動： 動物と触れ合う中で、感じることできた可愛らしさや愛しさ、驚き、また実際に観察・体験したからこそわかる大きさ・形や毛の触感などを、自分なりに意欲的に主体的に身体で表現したり、個性豊かな表現を行ったり、協働的に制作したりする姿が期待できる。 【星野氏との造形活動】大きな模造紙や布をキャンバスに、さまざまな材料で、色彩を感じ考えながら、造形作家の星野氏と一緒に大きな1つの作品を作っていく。場所も保育室ではなく、和光幼稚園のホールや園庭を使うので、伸びやかに、ワクワク感をもって開放的、意欲的に表現活動を行う姿が期待できる。講師の魔法のように絵を描いていく姿に触れたり、アッと驚くような仕掛けがある作品と一緒に手掛けることで、子ども達はさらにたくさんのワクワク感を感じ、表現の魅力に魅せられ、「自分も描いてみたい!」と意欲的、主体的に制作を行うことが期待される。また、皆で1つの作品を作ることで、友達や先生とコミュニケーションを取りながら協働して行う姿も期待できる。また、専門家と一緒に作品を創りあげたり、専門家に認められること、それは大いに自信に繋がることと考えている。他の子が認められていることを見て、友達の新たな一面を見ることができ、多様性を認めることも期待できる。子どもにとっての1つの自信が、さまざまな事への意欲に繋がることも大いに期待できる。

事業後	8についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 移動動物園において： 普段の園にはいない動物を見て触って、何かを感じたり感動したり、心を弾ませる感動体験ができた。その後の制作活動では、その感じたことをそのまま表わそうと、思いだしたり考えたりする姿に繋がった。また、間近で動物を見て触る体験は、動物に対して、さらにたくさんの感情も生まれ、友達といっしょに体験することによって大きな意味をもつ幼児期の子どもにとって、大きな意味があった。動物に対する興味や関心、友達や先生との会話をしながらコミュニケーションを高めることもでき、その会話から気持ちを共有する機会や新たな発見・興味も生まれることができた。 表現の保育において： 導入部分では、動物への興味関心を年齢や表現活動の内容に応じた保育を行うことで、動物に触れあう時も様々な視点で触れ合ったり観察することができた。移動動物園後の表現活動では、より豊かな表現に繋げていくことができた。子どもが期待感や興味関心をもって移動動物園に参加する姿、主体的に動物に接する姿があった。表現活動では、動物と触れ合う中で、感じることでできた可愛らしさや愛しさ、驚き、また実際に観察・体験したからこそわかる大きさ・形、色合い、重さや感触などを、特に年長児は自分なりに意欲的に主体的に表現したり、協働的に制作したりする姿があった。 造形作家の星野はるか氏との表現活動において： 造形作家の星野氏やクラスの友達と一緒に大きな1つの作品を作る体験では、園のホールを使い、伸びやかに、ワクワク感をもって開放的、意欲的に表現活動を行う姿が見られた。今年度は、長いロール紙に講師の魔法のように絵を描いていく姿に感化されながら、自分たちでもイメージしながら、友達と会話を楽しみながら、作品と一緒に手掛けていた。いつもよりも長い時間を要していたのに、集中して活動できていたのは、子ども達はたくさんのワクワク感を感じながら、表現の魅力に魅せられていたからだろう。3回を通して、「自分も描いてみたい！」と意欲的、主体的にイメージしながら制作を行うことができていた。皆で1つの作品を作ることで、友達や先生とコミュニケーションを取りながら協働して行うことも楽しい経験だった。色を混ぜる、という行為がしたくなる過去の様子を見て、今回はART-Tシャツ作りを企画したが、色を作るという事の楽しさを知る機会になったと思う。専門家と一緒に作品を創り上げる共同作業や、専門家に認められること、それは大いに自信に繋がる。他の子が認められているところを見て、友達の新たな一面を見ることもできただろう。子どもにとっての1つの大きな自信が、さまざまな事への意欲に繋がり、いろいろな活動においても「やってみよう！」という意欲的な姿に繋がっているとと思う。
9 効果検証総括		事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて 本園の教育の特色の1つである「表現」の領域の中の造形あそびにおいての教育内容をさらに充実させるため、今年度もこの事業を行った。動物とのふれあいを通しての直接的な感動体験は、子ども達の豊かな感性を養うことに寄与でき、その体験をもとに行なった制作活動では、感じたことや興味をさまざまな材料を使って制作するなど、一人一人の個性豊かな表現活動へと繋げることができたのではないかとと思う。また、造形作家の星野はるか氏を迎えての表現活動では、子どもたちはたくさんのワクワク感を感じ、表現の魅力に魅せられ、「自分も描いてみたい！」と意欲的、主体的にイメージしながら制作を行う姿があった。皆で1つの作品を作ることで、友達や先生とコミュニケーションを取りながら協働して行う楽しい経験できた。今年度は、過去の子どもの姿から新たな「ねらい」をもって臨み、造形あそびがより充実した活動になったと思う。また、専門家と一緒に作品を創りあげたり、専門家に認められる体験は、子ども達にとって大いに自信に繋がり、他の子が認められているところを見て、友達の新たな一面（よさ）を知ることにも繋がる機会となった。子どもにとっての1つの大きな自信が、さまざまな事への意欲に繋がり、いろいろな活動においても「やってみよう！」という姿が増え、子ども達の成長した姿を見ることもできた。また、企画の1つである星野氏との共同作業は、一人ひとりの作品を集めて、1つの大きな作品にした時の子ども達の喜びや嬉しさと、星野氏と一緒に制作することで、専門性が加わった芸術的作品は、大変感動的なものとなり、子ども達の豊かな感性を育むことに大変寄与できたのではないかと考える。これからも、これらの貴重な表現活動を教育に取り入れ、和光幼稚園の特色のある教育として取り入れていきたいと思う。

※必要に応じて、別紙の添付やイラストの活用などにより事業説明を補足しても構いません(別紙は任意様式)。

※幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育のねらいや内容等については、幼稚園教育要領の5領域から構成されていることを踏まえ、本事業では「幼稚園教育要領」とのみ記載しています。